

## 明星大学地域交流活動報告 — 日野市との交流、学部教育の現状 —

名 取 淳\*

---

### 【目次】

1. はじめに
  2. 明星大学の教育方針と地域交流
  3. 日野市と明星大学
  4. 地域と学科
  5. おわりに
- 

### 1. はじめに

明星大学に地域交流センターは平成 27 年 4 月 1 日に設置された。その主な活動は現在、日野市を中心に地域交流の調整を行い、また学内の地域交流の情報整理を行っている。ここでは、その現状を報告する。それは、この紙面では多くを報告できないので、日野市を中心に、一学科の状況等とする。

まずは、地域交流センターの設置の趣旨を確認する。それは、明星大学のウェブサイト以下の通り示されている。

地域交流センターは、本学学則第 1 条の「教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」を実践し、「地域に立脚した教育の推進」を行うための窓口として、大学事務局に設置された。日野市との包括協定に基づき、今まで以上に交流を活発化させるとともに多摩地域の活性化に寄与するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域交流活動の推進に関すること
- (2) 地域交流活動に係る学内及び自治体、企業等の情報収集・管理に関すること
- (3) 地域交流活動に係る学内調整に関すること
- (4) 地域交流活動に係る事業の学内外への情報発信に関すること
- (5) 地域交流活動に対する理解促進等に係る啓蒙活動に関すること
- (6) 地域交流活動に係る自治体、企業等との協定に関すること
- (7) その他地域交流活動に関すること

この地域交流は、近年、大学の教育および研究という二つの柱に加えて、三本目としての役割である社会貢献としての役目を担っている（注 1）。それは、教育基本法および学校教育法の改正に示される。教育基本法は、平成 18 年に改正され大学の役割として「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」（教育基本法第 7 条）となった。

---

\* 明星大学地域交流センター センター長

学校教育法では、教育基本法の改正に従い平成19年に、「大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」（学校教育法第82条2項）という項目が加わっている。このいわば大学の第3の使命は、「外の世界との関係性を構築する大学の諸活動が、大学の現代化として欠かすことのできない認識が背景となっている。」（注2）

この第3の使命、大学が果たすことが求められているようになっているものは、(1) 経済開発、(2) 協働的関与、(3) 継続教育・生涯教育の促進、および(4) 人的資源の確保等である。（注3）これらの使命を地域交流センターが各部署との連携において、学外の方々と仲介していく存在となる。この使命を果たすため、地域交流センターは次の通りの理念およびビジョン等を定めた。

理念は、「地域交流をデザインする。交流の仲間をつくる」ことを目的に以下の通りとする。

- (1) 現状（活動状況、知的財産、課題）を知る（情報を整理する）。
- (2) 地域の要望を引き出す（地域の課題を解決する）。
- (3) 大学の財産を活かす（教育研究の地域との交流を活発にする）。

ビジョンは、「大学の知財をアライアンスにより、地域、企業および大学の相互補完を進める」とし、その計画・展望は次の通りである。

- (1) 2015年度内に、
  - ① 学内の地域交流情報を把握し、学内に周知する。
  - ② ウェブサイトにて、地域交流情報を学外に知らしめる。
  - ③ 交流に係る講演会（報告会）を行い、また報告書を作成する。
- (2) 次年度以降の2年間で、
  - ① 産学官の連絡会を実施する。
  - ② 市内の大学間と市との交流会を実施する。
  - ③ 事務組織を再編する。
  - ④ 2つ以上の市との包括協定を結ぶ。

以上の考えをもとに地域交流センターは活動を開始した。そして、その根底には明星大学の教育理念がある。それを以下で確認する。

## 2. 明星大学の教育方針と地域交流

明星大学の教育理念は、母体である明星学苑の教育理念に従っている。それは児玉九十の教育に基づく。まずは明星学苑の教育理念を確認する。

明星学苑の建学の精神は、「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」とし、それに従っての教育方針は、「人格接触による手塩にかける教育、凝念を通じて心の力を鍛える教育、実践躬行の体験教育」としている。また、「健康、真面目、努力」を校訓としている。ここでの「世界に貢献する」というその世界とは、いわゆるグローバルというような世界観もあるが、基本となるのはそれぞれの特定の限られた範囲の世界、人の集団や地域において貢献する人の育成のために、一人一人の学ぶものを大切に体験教育を行うことを基本とする。

以上の明星学苑の教育理念をもとに昭和39年に明星大学は設置された。初めに、産学共同という狙いもあり、理工学部からの設置であった。そして、翌昭和40年度に人文学部、それから昭和42年度に通信教育部を設置している。現在の7学部及び5研究科は、以下の教育目標の下、その教育内容と教育方法を定めている。明星大学の教育目標は、「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」として、その教育内容と教育方法を

- (1) 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- (2) 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- (3) 心と体の健康管理の教育
- (4) 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- (5) 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育、と定めている。

この教育目標に従い教育課程は、全学共通の枠組みが作られている。124単位の卒業要件の内、32単位が全学共通であり、92単位を学部学科科目に振り当てられている。学部学科科目については以下で述べるとして、まずは全学共通の科目を確認する。

全学共通教育の人材養成の目的は、「世界に貢献する人として必要な、基礎的且つ幅広い教養を身につけ、知的、感情、意志、及び心のバランスのとれた人格の育成、総合的な思考力と的確な判断力を持ち、自立し、世界の人々と共生できる人の育成、自ら積極的に学び考える、自己教育能力を持つ人の育成をする」としている。この目的に従った教育課程においては、体験教育を目標にしている授業科目がある。直接、地域と直接結びつく授業はないが、間接的には「社会的・職業的自立促進科目」における「ボランティア実践1」及び「ボランティア実践2」がある。この科目は、「社会の営みを理解する」科目区分の「ボランティア論」を学修した者が実際に地域に出てボランティア体験をする科目である。平成26年度に開設された2年生以上の学生が履修する科目であるので、平成27年度より開講された。授業内容は、事前学習、体験及び事後学修からなり、その体験が大学の近隣地域・施設でのボランティア活動であり、今後の学生たちの地域活動への端緒を目的とする。また、その履修者は10名に至らぬ状況であるが、「体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育」として期待される。また、全学共通教育科目についての検討が学長の下諮問委員会にて検討が進められており、地域交流に係る科目の設置も求められている。

学部学科以外の地域活動には、教育課程外の活動もある。主体的に活動する学生の育成には、正課教育以外にも求められており、その方針について、大学の事業計画においても示されている。この正課外の活動、教員の教育研究活動及び正課授業における活動等について、日野市での活動に絞って以下で確認する。

### 3. 日野市と明星大学

明星大学は日野市と平成27年2月2日（月）に「相互協力・連携に関する包括協定」を締結した。その協力・連携事項は、以下の通りである。

- (1) 教育の振興および子育て支援に関すること。
- (2) 経済・産業の活性化に関すること。
- (3) 芸術・文化の振興に関すること。
- (4) 地域の活性化、まちづくりに関すること。
- (5) 健康及び福祉の向上に関すること。
- (6) 地域の防災活動に関すること。
- (7) 自然・環境の保全活動に関すること。
- (8) 人材の育成に関すること。
- (9) その他目的を達成するために必要な事項。

これを実現するために、平成27年9月末現在の46の活動が行われている。その活動内容を協力・連携事項別に分類すると次の通りである。

- (1) 教育の振興および子育て支援に関すること。
  - ① スクールカウンセラー・インターン (学部)
  - ② 特別支援教育推進事業 (学部)
  - ③ わかば教室ボランティア (学部)
  - ④ 地域支援業務でのボランティア活動・インターンシップ受け入れ (学部)
  - ⑤ しんめい児童館のボランティア
  - ⑥ 一中、二中、三中の特色ある学校づくりプロジェクト
  - ⑦ 日野サンライズプロジェクト
  - ⑧ 障害者訪問学級
- (2) 経済・産業の活性化に関すること。
  - ⑨ 製品・技術力が見える化プロジェクト (学部)
  - ⑩ 中小企業経営相談 (学部)
- (3) 芸術・文化の振興に関すること。
  - ⑪ 「芸術文化の薫るまち日野」基本方針策定委員会 (学部)
  - ⑫ 日野市民会館文化事業協会赤レンガプロジェクト企画 (ボランティアセンター)
  - ⑬ 日野市民会館文化事業協会主催事業支援 (ボランティアセンター)
  - ⑭ 勝五郎生まれ変わり物語探求事業
- (4) 地域の活性化、まちづくりに関すること。
  - ⑮ イルミネーション事業 (学部)
  - ⑯ 高幡台団地活性化活動 (学部)
  - ⑰ 日野市活性化ビジネスプラン提案 (学部)
  - ⑱ 地域活性化アイドル育成プロジェクト (学部)
  - ⑲ 地域デザイン活動 (学部)
  - ⑳ だいすき日野市民フェア実行委員会 (ボランティアセンター)
  - ㉑ 公民館主催講座支援 (ボランティアセンター)
- (5) 健康及び福祉の向上に関すること。
  - ㉒ 認知症サポーター養成講座 (学部)
  - ㉓ 日野市自殺総合対策基本計画検討委員会 (学部)
  - ㉔ 発達支援事業 (学部)
  - ㉕ ちょこっと散歩会 (連携研究センター)
- (6) 地域の防災活動に関すること。
  - ㉖ 日野市役所本庁舎免震改修工事プロポーザル選定委員会 (学部)
  - ㉗ 地震観測 (学部)
  - ㉘ 日野市防災会議 (ボランティアセンター)
  - ㉙ 避難所施設利用に関する協定 (総務課)
- (7) 自然・環境の保全活動に関すること。

- ⑩ みんなの環境セミナー（学部）
- ⑪ 東京グリーン・キャンパス・プログラム（学部）
- ⑫ 緑の基本計画改訂業務（学部）
- ⑬ ふだん着でCO2をへらそう事業（ボランティアセンター）

(8) 人材の育成に関すること。

- ⑭ 中小企業魅力発見プロジェクト（学部）
- ⑮ ものづくりの楽しさ応援プロジェクト（学部）
- ⑯ 図書館学講義への講師派遣（学部）
- ⑰ みんなの遊・友ランド（ボランティアセンター）
- ⑱ 若年層啓発事業（ボランティアセンター）
- ⑲ 保育インターンシップ（教職センター）
- ⑳ 日野市学生インターンシップ（教職センター）
- ㉑ 図書館実習生受け入れ（全学共通）
- ㉒ 春休みわくわく学修術

(9) その他目的を達成するために必要な事項。

- ㉓ 被害者支援講習会（学部）
- ㉔ 日野市男女平等行動計画策定委員会（学部）
- ㉕ 星友祭コラボレーション（星友祭実行委員会）
- ㉖ 高幡不動駅地下道における自転車者安全通行啓発活動

以上の46の活動について、「(学部)」と記されている活動は、ある学部の教育研究に係るものである。その他は、正課外の活動であり、その中ではボランティアセンターの活動が8件と目を引く。また、平成27年度は、星友祭（学園祭）の50周年に合わせて、日野市と星友祭とのコラボレーションが成立した。これは、今後も継続されていくことが期待される。

地域交流センターは、既存の事業の継続および新規活動調整のために、日野市との定期連絡会を9月より毎月実施し、その中で新たに次の活動が実施されている。今後は、活動モデルを提示し、多くの学部学科が参加できるようことが求められる。

学生の活動風景



日野市長との懇談会



日野市長との懇談会



日野市長との懇談会



日野市長との懇談会



商工会プラットフォーム



日野市役所展示

#### 4. 地域と学科

学部学科の教育と地域交流活動は、日野市においては、前述の通り行われている。これについて、その成果がいかなるものか。評価を出すには様々な情報を集約しなければならない。また、学生個々に対する効果もあれば、その学部学科の受験生等に対する効果もある。ここでは、経営学部経営学科の(以下「経営学科」)の一部の取り組みを報告する。

経営学科の教育上の目的を確認する。それは、以下の通りである。

##### 経営学科の教育上の目的（「履修の手引」（平成 27 年度版））

経営学部経営学科	
人材養成の目的	経営学部は、経営の全体像と専門分野で身に付けたスキルを活かし、情報化、国際化、社会発展への貢献など多様化する企業の行動様式を広く科学的、実践的に捉え企業経営の進路を創造的に切り拓く、豊かな人間性を備えた人材を育成する。同時に高い教養と常識、経営の専門知識と技能を持ち、企業経営の関する問題の発見とその解決能力を身に付ける人材と広い視野と協調に富み、企業・社会に貢献できる人材を育成する。
学位授与方法	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営の分野における知識と技術を理解する。</li> <li>2. 企業の社会的責任統治能力を理解する。</li> <li>3. 正しい経営活動を実践する知識を身に付ける。</li> </ol> <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 人間関係と組織活動を重んじながら行動することができる。</li> <li>5. 経営学の知識を活かしながらも、硬直的な理論にとらわれず柔軟な行動をとることができる。</li> <li>6. 経営学の知識を用いて論理的に物事を理解することができる。</li> </ol> <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 世の中の動きに関心を持ち、様々な情報を整理して現状を把握することができる。</li> </ol>
学位授与方法	<p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 社会人、企業人として生涯自発的に学ぶ能力を身に付ける。</li> <li>9. <u>社会人、企業人として地域社会の一員として貢献できる能力を身に付ける。</u></li> <li>10. 経営活動が社会に与える影響を理解する。</li> <li>11. グループの一員として、同僚と共同して作業を行うことができる。</li> </ol> <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12. 身に付けた経営学の知識を活かし、企業活動に役立てることができる。</li> <li>13. 科学的な調査手法や分析方法を用いて論理的に物事を理解することができる。</li> </ol>
教育課程編成方針	経営学部の基礎理論を基に、起業教育を軸にした実践的な体験教育の機会を多く設け、「起業・戦略」「マーケティング」「経営資格」の各分野を体験的に学習する。併せて、「キャリア開発」分野を並行して学ぶことで、高い教養と経営に関する専門知識と技能を持ち、企業経営に関する問題発見と解決能力を身につけさせる。

入学者受入方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規事業の立ち上げや起業に意欲のある人、あるいは家業の事業継承に意欲のある人。</li> <li>2. 新製品の企画や開発、広告宣伝などマーケティングのプロになろうとする意欲のある人。</li> <li>3. 経営分析・経営診断などのスキルを身に付けて、財務や経理の専門家になろうとする意欲のある人。</li> <li>4. 営業やサービスのプロとして企業の即戦力になろうとする意欲のある人。</li> <li>5. 組織や人事、営業戦略などトータルな企業経営に関する知識を習得しようとする意欲のある人。</li> </ol>
---------	---

教育上の目的において、基礎知識を基に、問題解決能力及びコミュニケーション能力の必要性を示している。また、実践的手法やキャリア教育の重要性を挙げている。この教育上の目的を基に教育課程が作られている。その教育課程の在り方は、ここでの議論にならないが、この「教育上の目的」の中で、「学位授与方針」において地域に係る表現がある。その到達目標及びそのための必修科目と深く関連する科目は次の通りである。

### 経営学科（学位授与方針の態度）

9. 社会人、企業人として地域社会の一員として貢献できる能力を身に付ける	
関係科目	「ゼミナール1」、「ゼミナール2」、「ゼミナール3」、「ゼミナール4」、「経営学特講B（地域経済）」、「経営学特講C（地域企業）」、「経営学特講D（地域産業）」、「中小企業経営論」、「卒業研究」

シラバスを見る限り、地域交流のための科目は準備されている。その当該の学部学科の地域交流活動状況を確認したい。地域交流センターにて正式に学内で共有しているのは、前述の日野市の情報である。経営学科は前掲の日野市との協力事業において以下の活動を行っている。

- ⑩ 中小企業経営相談（市内中小企業を中心にヒヤリングを行い、経営に関する提案などを行っていく）\*教員の活動
- ⑪ 日野市活性化ビジネスプラン提案（ビジネスプランニングをテーマとしたゼミにおける、日野市が抱える諸課題を解決するビジネスプランを構築する授業）\*授業
- ⑫ 地域活性化アイドル育成プロジェクト（学生によるアイドルユニットを結成し、日野市の観光PR等の活動を行いながら、UNITDOL、大学対抗女子学生アイドル日本一決定戦、優勝を目指す）\*授業

経営学科については、この他にも活動報告を受けている。また、多摩市でのハロウィンでの販売活動や大学祭における模擬店活動は周知のところであろう。ハロウィン（多摩センター）については本学ウェブサイトにおいて、次のような説明をしている。「明星大学は、『自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成』を教育目標に掲げています。明星大学の考える「社会に貢献できる人」とは、問題を自ら見だし、その解決に向けた判断力と実行力を持った人です。その能力を身につけるためには、現実の問題に対して自分で体験し、解決することが必要と考えます。そのため、明星大学では「体験教育」を重視し、カリキュラムの中にさまざまな体験プログラムを導入しています。……具体的には、多摩センターで開催されるイベントへ出店するために必要な、出資、商品計画、プロモーション活動、販売、決算などの全てを学生自らが行います。……『ハロウィン祭り in 多摩センター』に出店、4年生は1年生の出店指導を行います。ここでは3年間を通じて経験したこと、反省したことなどを含め、指導を行います。このように大学生活を通し、机上で勉強したことを実践することで、学生自らマーケティングを体験することができるカリキュラムとなっています。学生達がどれだけ努力しても結果に結びつかなかったり、チームのモチベーションを維持させることが難しかったりする等、苦勞することも多くありますが、このように苦勞や努力することを経験し、反省



をし、知識を深め、次につなげていきます。この1年生から4年生まで通して行うことこそ、体験型授業の最大の特徴です。」この他にも経営学科からの地域交流の実績報告はあるが、省略する。なお、経営学科は、今後、「地域創生推進」のコンセプトを掲げて、教育課程を充実させていく予定である。

## 5. おわりに

現在、地域創生が謳われ、その活動の一部として大学にも期待されている。しかし、いつもながらの国家主導の地域活性化は、どこまで効果を上げることができるのか。地方自治体は、上からの指示とルールに従って組織が動く。それは、日本式の全国統一行政であり、地域の風土に合わせた執行とならない。KPS（注4）に縛られ、それを達成できなくなった自治体はどうなっていくのか。この評価されるそのやり方に、明星大学はそれを放っておけない。地域住民、企業・商店が活動していくために、明星大学は実践躬行の精神で、動いていかねばならない。そのためには、フットワークのある教育課程の整備が必要である。そのモデルの一つとして、本学経営学科の教育課程と教員組織がケースとして挙げられよう。学生の地域活動へ送り出せるシステムと、教員組織及び個々の教員の行動力が期待される。

嘗ては、地域にとって大学は、人の量がその地域への貢献であった。それが今日では、その活動内容が重要になってきた。つまり、学生はその地域における消費者で、4年間のお客様であった。これが地域での活動を行うことで、サービス者になる。地域および大学の両者の活性化のために、ますます交流を盛んにしていくことが重要となる。そして、何よりも学生の成長のために、地域社会での活動が必要である。現在の大学生のおかれていた就職戦線は、限られた期間で準備をして活動をしていかねばならない。卒業するまでに就職先を決めなければならないという日本の特質である「間断のない移行」（注5）においては、3年間において「身に着けさせたい能力」がある。それは、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会（2011年度）が示している。

勤労観・職業観等の価値観

意欲・態度

創造力

論理的思考力

基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

この他、これまでに「社会人基礎力」、「学士力」、「ジェネリックスキル」などの概念が登場している。それらを充実させるのが「体験教育」である。地域社会での交流を行い、社会を体感し、失敗をして、自らの力を実感し、各自の目標設定を作っていく、主体性を身に着けさせる教育を進めることである。社会・企業体験としてはインターンシップも挙げられる。これも、重要な体験であるが、インターンシップの全てではないがその内容は補助的業務の分担や見学になりがちである。インターンシップは外の人、お客様であるが、地域活動ではその構成員となり、「学生でなければ持ちえない企画・・・戦力として地域組織の人々と対応等に」（注6）なるのである。

大学教育で期待されているのは、これまでの教育研究に加えて、「学習することの意味がつかめない」学生たちに

自主的に学習する力をつけさせることである。「卒業後や将来展望を持ちにくく。何かを選択したとしても、『仮決定』の意識が強い。外側の世界が厳しいことは直感しているので、すぐに社会に出るつもりはなく、家庭の事情が許せば、進学する。……やる気や意欲がないわけではない。『何のために?』がわからないことには、努力できない」(注7)のである。従って、「何に興味があるかを探す支援が動機づけ」に、また「自分で、学ぶものを『決める』支援が動機づけ」(注8)となるその一つとして、体験学習としての地域活動が利用されるのである。しかし、この地域活動は、授業運営の上で、その準備に時間を要する。担当教員の負担を如何に大学が支援していくかを考慮しなければならない。大学全体が共通認識を持ち、安心して教員が学生を地域に出していくことで、大学と地域とのコラボレーションを確立したい。コラボレーションが、私たちの今後の生きる道でもある。それは、地域の他、企業や他大学とのシェアリングである。他者を排除して勝ち抜いていくような価値観から、汗をお互いに流して「健康、まじめ、努力」を心に、活動を継続していきたい。

---

(注)

1. 橋本行史『地方創生の理論と実践』(2015、創成社)、p.19。
2. 白石克孝、石田徹『持続可能な地域実現と大学の役割』(2014年、日本評論社)、p.6。
3. 同上、p.6。
4. Key Performance Indicator = 重要業績評価指標。
5. 溝上慎一、松下佳代『高校・大学から仕事へのトランジション』(2014年、ナカニシヤ出版)、p.43。
6. 京都経済短期大学職員研究会『大学教育と地域社会』(2009年、晃洋書店)、p.10。
7. 児美川孝一郎『大学におけるキャリア教育の過去・現在・近未来』(明星大学明星教育センター公開FD研修会、2015年12月10日)。
8. ベネッセi-キャリア『明星大学のデータから見る教育へのヒント』(2015年12月21日、明星大学全学FD研修会)。